



## 井口 由紀子

広告制作と Mitsuboshi Photo Studio というレンタルキッチンフォトスタジオの運営を行っております株式会社 IGUDES の代表兼フォトグラファーの井口由紀子と申します。使命は「伝えること・伝えること」広告の持つ“チカラ”をもっと発信し知ってもらいたいという思いで昨年 12 月に会社を設立いたしました。私は料理撮影を中心に広告制作を行っており、ホテルレストランのリーフレット制作や web 掲載などの撮影を行っています。広告制作で大切なのはプランディングです。プランディングは見栄をはるものでもなく、格好つけるものでもありません。「本質を追求するものである」ということをコンセプトに仕事をしています。料理撮影では「温かいものは温かく」「冷たいものは冷たく」表現にギャップがあってはいけないと考えています。「半音あげる↑」ということが一番ベストな表現方法であるという考えで、一番良いところ(強いところ)にフォーカスし、そのものの価値をあげる。IGUDES ならではの視点で半音の変化がやがて多様な変化へと繋がるという思いで毎日、仕事をしています。ここまでは経営者としてのお話しを書かせていただきましたが、プライベートでは 3 歳の子供を持つお母さんです。娘との時間を少しでも多く取りたいという気持ちから古民家を改装し料理撮影のできるキッチンフォトスタジオも作りました。「ママお仕事頑張って」と言ってくれる娘にも、いろんな場面で協力してくれる家族にも日々感謝を会社経営をしています。広告制作は「高い」とイメージの方も多いかも知れませんが、とても効果のある「表現方法」であることを知っていただき、たくさんのお店や企業のお手伝いができれば嬉しいです。地域クラウド交流会ではたくさんの方と出会うことをとても楽しみにしております！どうぞ宜しくお願いいたします。

## 本日のプレゼンター

プレゼンを聞いて「あなたが一番応援したい！」と思った方にクラウドシステム kin tone より【電子投票】をしてください。



## 内野 勝行

この度プレゼンターをさせていただきます内野 勝行です。  
私は金町駅から歩いてすぐのところにて 2 年前にクリニックを開業しました。  
金町脳神経内科・耳鼻咽喉科というとても長い名前のクリニックです。ただこのクリニックは今までに無い診療をしています。まず様々な治療法を提供しています。鍼灸、整体、栄養指導、漢方、サプリメントなどです。そして西洋医学の現在最先端である画像診断である MRI も月 100 件に迫るペースで行なっています。相反するふたつのような感じもしますがそこには 1 つのポリシーがあります。それは「困った人の最後の希望でありたい」ということです。世の中には不安を煽る医療番組や雑誌、ネット情報が山ほどあります。正直その中から真の医療情報を得ることは至難の技です。そこでできることは 1 つ「真実を知り信じる医師に出会う」と言うことです。もちろん私は神の手も持っていませんし年齢的にもまだまだ若いですが。ただ目の前の方の不安を少しでも和らげる努力を一番できる医師だと確信しています。そんな私が今ライフワークとしている認知症。その見えない敵に対する新しいアプローチを開発しました。3 分ではそのさわりのみ「さ」の字もお伝えできないかもしれませんが。ただその「さ」の字から皆さんに少しでも医療の未来に希望を持っていただければ幸いです。



## 中澤 勝

9 月に学習塾とカフェとカウンセリングサロンの 3 つを融合させた新しいタイプのお店「サポートスタジオ・マーレ」を高砂でオープンいたしました。私は、都立高校の教員を 2 年前 60 歳で定年退職いたしました。再雇用はせず「退職金で年金支給まで質素に生活していけば何とかなるだろう、などと甘い考えを持っていたら、家のローンの返済と税金および生活費で退職金の大半が僅か 1 年間で消えていってしまいました。そこで、過去の経験を活かし、小さな個人塾でも開いて生活の足しにしようと考えました。そんな中、シニア創業サポート事業のお話をいただき、それを利用して、庭に小さな教室を建設しようと思案しました。しかし、一筆の土地に一建物という法律や建蔽率などから断念せざるをえませんでした。そこで店舗を借りることに方針を変更しました。しかし、塾だけで家賃を払っていくのは困難で、昼間有効利用をしていかなければと考え、喫茶店とカウンセリングルームを融合したスタジオ開設を企画しました。そんな無理難題を地元の工務店さんを中心に多くの関連業者の皆様との協力を得て、私たちが想像していた以上の素晴らしい施設が出来上がりました。老後の隠居生活に在るべき人間が、今まさに社会人一年生の気分です。一つの人生を終え欲や野心はなく、融資の返済をしながら地域に貢献できればいいという精神的余裕からか、不安やプレッシャーは一切ありません。それより今回の起業で多くの人に支えられて、やりがいと生きがいを与えられ、それに応えなければという気持ちでいっぱいです。この地域クラウド交流会でその気持ちを発表する機会を与えていただいたことを心から感謝いたします。



## 今井 勇樹

「モノ」で支えるあなたの「ライフ」  
株式会社モノライフの今井と申します。  
唐突ですが、みなさまはご自身の老後についてどの位考えてみたことがございますか。何とかなる、家族が面倒をみてくれる、施設にでも入る。私もそう考え、永らく介護業界に携わって参りましたが、どうもこの先、自分が思い描いていた通りの老後になるのが本当に不安を感じるようになりました。自分の老後どころではありません。たった 8 年先にその現実(2025 年問題)が迫ってきております。事態は深刻です。私はこの 8 月に独立を致しました。事業計画には「葛飾区を高齢者が住みたい街第 1 位にする」と銘打ちました。私の仕事は、高齢の方が「ヒト」ではなく「モノ」のチカラで、一日でも長く住み慣れた我が家でも自分らしく自立して暮らせるよう、ベッドや車いす、杖、手すりなどの提供、住宅工事も行ないます。「一日でも長く」が重要です。意外かもしれませんが少し変えるだけで、驚くほど効果を発揮します。介護業界は「ヒト」が足りていません、売り手市場の昨今で新たな成り手も少ないです。介護業の給与水準が低いのは周知のこと。国の制度も正直当てになりません。介護業界のことは介護業界で何とかしてと言いたくなりますが「介護」は誰しもがいずれ向き合うときが来ます。そのとき私は「モノ」に役に立ちたいと思います。どうか業界の枠を超えて、様々な産業の皆様の手が必要ですよ。  
この続きは、一聴の価値となるよう、当日に精一杯お話しさせていただきます。ご拝読、有難うございます。



## 小峰 ゆみ

『人形劇・イベント企画 ぶどうのおんぶ』代表「歌のお姉さん」の小峰ゆみです。アラフィフ 50 歳の歌のお姉さんです。日本中に若くて可愛い「歌のお姉さん」はたくさんいます。でも、「50 歳の歌のお姉さん」は、めったにいません。短大を卒業し、保育の仕事に就いた後、人形劇団に所属。のっぽさんとミュージカルや子どもショーに出演。結婚して母になり子育て。専業主婦を 7 年間。その後、結婚式の司会を始め 17 年、「歌のお姉さん」復帰 15 年。東京スカイツリーで接客も学びました。そして、2013 年に劇団がまさかの倒産。倒産から 2 年後に「ぶどうのおんぶ」の代表となり、今の私があります。『ぶどうのおんぶ』を立ち上げたきっかけは、歌や人形劇で「子育て支援」がしたいから。子供たちと着くみと一緒に踊ったり、手遊びしたり「子どもが参加」と「親子のふれあい」を大切にしています。子供たちやパパママと皆で一緒に『ふれあいイベント』で親子の笑顔を作ります。子育て奮闘中のパパママの心がほっとする時間を作ります。核家族化が進み、地域の希薄化が嘆かれている今、子育てに悩んでいるお母さんはたくさんいます。先日、公演後に「お姉さんの言葉に涙が出ました。子育て頑張ってる来年また来ます」と、声をかけて下さったお母さんがいました。そんなふうにして下さる方が一人でもいるなら、何歳になっても私はお姉さんでいたい。そのような場をもっと作っていきたく。子供の笑顔がママの元気。ママの笑顔が子供の元気。子育てを経験した「歌のお姉さん」だからこそできる形で、パパママに元気を届けます。『ぶどうのおんぶ』のコンセプトは「子どもが笑って ママも笑う パパも笑う」母の目線での子育て支援を新しい形で創り、心を込めて展開して参ります。どうぞ、よろしくお願いたします。